

朝・夕はめっきりと涼しくなり、つい厚着になりがちです。しかし、寒暖の差が激しいこの時期こそ薄着の習慣をつけて、冬の風邪に負けない丈夫な体をつくりましょう。

地域的には、感染性胃腸炎(嘔吐・下痢)が発生している様なので気をつけましょう。

保健行事

歯科健診 11月 07日 (火曜日) 9時 30分より嘱託医の桜井先生による

0才児健診 11月 17日 (金曜日) 14時 30分より嘱託医の吉崎先生による

※今月より、0才児健診は、月に1回となります。身長・体重測定もしています。

※両日とも地域の方もぜひお子さんと一緒にお越し下さい。

カラーテスター 4・5才児対象となります。歯科健診後に予定しています。

歯の表彰について

保育園における歯科健診の目的は、早期発見、早期治療です。園においては、子どもの心身の健康を守ることと、幼児(4才児)からは、自分で守ろうと思う意識をもってもらうために下記の『歯の表彰』を行っています。

♥ 『むしばがなかったでしょう』…虫歯がなかった子

♥ 『むしばをなおしたでしょう』…健診の結果、虫歯の疑いまたは、虫歯がある場合に歯科通院して、その結果を園に提出した場合。(配布した用紙に歯科医の検印をもらって下さい!)

♥ カラーテスター後に、下記『〇〇しょう』を対象クラスの全員に発行しています。

4才後期『かがみをみながらみがきましょう』

5才前期『すなどけいをつかきましょう』 5才後期『ひとりでみがきましょう』

※いずれも4・5才児対象です。3才児に関しては、前期は、歯みがきのスタート期のため後期になってから表彰の対象となります。



予防接種で免疫をつくる

集団生活をおくる保育園は、同年齢の集団であるため、子どもがかかりやすい病気が発生すると、あっという間にひろがってしまいます。症状が軽い病気は、上手に乗り越えさせて免疫を獲得させる事ができますが、重い合併症をおこす病気は予防接種で免疫を得ることで、個人としても集団としても予防が可能になります。



予防接種についてのお願い

- ・ 予防接種後は、副反応(接種部位のひどい腫れ、高熱、ひきつけなど)を考慮し、登園する前に病院に寄り、接種してくることは、控えていただくようお願い致します。降園後の接種(週末であるとゆっくりと休めるので、なお良い)をお願い致します。
 - ・ 予防接種を受けたら園にもお知らせください。(連絡帳や連絡ノートへの記入でも構いません)
 - ・ やむを得ず登園させる場合は、全身状態に変化か副反応が起きていないか、接種後30分~1時間ほどは観察してから登園するようにしてください。
 - ・ 接種した日は、普段どおりの生活でかまいませんが、(お風呂も可)はげしい運動は避けましょう。(厚労省 予防接種ガイドライン 一般的注意事項 を参考にしています。)
- 尚、予防接種の件でご相談がありましたら、看護師まで、お声をかけて下さい。

☆ 予防接種は計画的に体調の良い時に受けましょう

裏もあります。

登園の目安について

風が冷たく、寒い日が多くなりました。低温、低湿度の冬は、カゼやインフルエンザ、胃腸炎、RSウイルスなどの感染が広まりやすくなります。集団保育の場では、具合が悪いからといっても、個人の安静を守ってあげることは、なかなか難しいものです。無理をして登園しなくてはならない場合、子どもにとってもつらいうえに、病気を長引かせてしまうことにもなりがちです。

	こんな時は休みましょう	登園できます
発熱	<ul style="list-style-type: none"> ・活気・機嫌が悪い、食欲がない、37.8度以上 ・24時間以内に38度以上あった ・24時間以内に解熱剤を使った 	<ul style="list-style-type: none"> ・前日38度を超える熱がない ・朝は37.8度以下で活気・機嫌も良い ・咳・鼻水の症状は悪くなっていない
咳	<ul style="list-style-type: none"> ・咳のため夜間に起きる ・連続して咳き込む、呼吸がつかう ・機嫌、食欲がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・連続した咳がない ・喘鳴やつかうような呼吸がない ・機嫌が良く食事も摂れている
下痢	<ul style="list-style-type: none"> ・24時間以内に2回以上水様下痢あり ・食事毎に下痢になる ・朝に排尿がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・24時間以内に2回以上水様下痢なし ・食事をして下痢にならない ・排尿回数がいつも通り
嘔吐	<ul style="list-style-type: none"> ・24時間以内に2回以上の嘔吐あり ・食欲や活気がない ・嘔気があり、いつもより体温高め 	<ul style="list-style-type: none"> ・24時間以内に2回以上の嘔吐がない ・食事をして吐かない ・機嫌がよく顔色も良い
発疹	<ul style="list-style-type: none"> ・発熱に伴って発疹がある ・口内炎で食事が摂れない ・とびひでは・ 顔などで患部を覆えない 患部を掻いてしまう ジクジクして健児に感染の恐れあり 	<ul style="list-style-type: none"> ・かかりつけ医の診察を受けた結果感染の恐れなし 全身状態がよいと診断された

※ 葛飾区私立保育園連盟における医師による研修会の資料より、抜粋しました。登園の目安にして下さい。また、病児・病後児保育室の登録をして、病みあがりのつらい時期を、段階を踏んで集団保育に臨む事の目安にして下さい。



運動遊びと切り離せない『ケガ』について考える

幼児期の子どもにとって、運動遊びは成長に欠かせない大切なものです。それは健康な体の発達はもちろん、豊かな心を育むためのものでもあります。走る、跳ぶ、投げるといったさまざまな動きを身につけ、運動能力を高めるのに適した時期は幼児期からとされています。特に、幼児期に多様な動きをくり返し経験しているかどうかは、その後の体の発達に重要な影響を与えます。幼児期の子どもがさまざまな動きを身につけていくのは、日々の遊びを通してです。遊びを通してこそ、さまざまな動きを身につけ、運動能力をたかめることができます。子どもたちはたくさん活動して小さなケガをいろいろと経験することで、大きなケガを防ぐ力、身のこなしを身につけています。痛い経験をするから、「痛くないようにするには今度はどうすればいいのか」を考えるのです。

また、爪をきちんと切って相手にケガをさせないようにする、髪の毛も視野をじゃましないように整える、そして睡眠をたっぷりとることも大切なことです。

園での「ケガ」については、その都度、連絡させて頂いていますが、園で気づかなかった分についても、小さなことでも家庭から園にご連絡して頂けますようお願い致します。

園では、ケガを防止するために、園内の安全点検やケガが起こりやすい状況に関して職員間で情報共有を行い、保育にあたっています。